



2 法人の経営内容の詳細

(1) 目的適合性(公益性)

項目	番号	質問	チェック欄	
			はい	いいえ
1 設立目的	1	法人は、設立目的に沿った活動を行っている。	○	
	2	全ての事業内容が、設立目的または趣旨にしたがって展開されている。	○	
	3	現在の社会経済情勢の下でも、法人の設立目的や事業には公益性が認められる。	○	
	4	法人を取り巻く社会経済状況は、設立当初から大きな変化はない。		○
2 代替性	5	民間等(株式会社の場合、他の事業者等)において、代替が可能な類似の事業が行われていない。		○
	6	現在の事業量は、最大時の事業量と比べて著しく減少していない。	○	
	7	法人が事業を廃止すると、事業の実施する事業者がまったくなくなり、市民が不利益を被る。		○
3 市の施策推進における役割	8	法人の活動は、関連する市の政策、施策に結びついている。	○	
	9	盛岡市総合計画やその他の部門別計画において、法人の役割が規定されている。	○	
	10	盛岡市総合計画やその他の部門別計画において、法人が実施する事業の施策上の役割、方向が規定されている。	○	
合計			7	3

・評価コメント

目的適合性(公益性)について総括的に評価し、課題が生じている場合、その解決のためにどのような方策を講じるかについて記載してください。また、法人に対する所管課としての評価及び関与のあり方について記載してください。

出資法人	<p>[ 現状と課題 ]</p> <p>当法人が指定管理者となり運営している盛岡市総合交流ターミナルは、農業資源を活用した都市との交流促進を図るため、平成10年に開館した施設で、この施設の維持管理運営を行うため旧玉山村が中心となり設立されたものであり、農業振興のほか、玉山地域唯一の温泉保養施設として、地域住民の憩いの場、交流の場、保養の場として福祉向上に寄与している。</p> <p>施設の管理運営は、温泉入浴施設のクアハウス、農産物の展示販売する産地直売コーナー、地産地消を推進する郷土食コーナーや宴席の提供、宿泊施設の運営、食工房の運営などが主な内容となっている。</p> <p>このほか、生地域域の優れた自然や景観の象徴とされている生湧水に至る遊歩道の案内や手入れを継続して行っているところである。</p> <p>以上のように施設の設置目的に沿った事業を法人として継続しているところであるが、施設の老朽化や周辺の温泉施設との競争、景気低迷による宿泊への影響等による来場者数の漸減傾向が継続し、収支の悪化を招くとともに人的及び財務面で十分な企画・営業活動ができない状況である。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の影響により春先に約半月間の休業を余儀なくされるなど、大幅な売上げの減少に直面している。</p> <p>加えて、産地直売所に出荷している農家の担い手不足や高齢化が進行しており、品薄状態となり課題と捉えている。</p> <p>[ 方策 ]</p> <p>当施設の設置目的である都市との交流促進や市民の憩いの場、保養と憩いの場として多くの方々の来場をいただき、健全経営に努めることが使命と認識しており、今後も継続して公益性を堅持して参りたい。</p> <p>また、老朽化している施設を平成29年にリニューアルし売上げが増となったが、今般の新型コロナウイルス感染症の影響により利用者、売上げとも大幅に減少しており、GOTOトラベルなど国、県、市等の支援策を積極的に活用するなどして設置目的に適合した健全経営に努めて参りたい。</p> <p>加えて産直コーナーに出荷している農家団体とも協議しながら安定的な品揃えが確保できるよう努めて参りたい。</p>
所管課	<p>[ 評価及び関与のあり方 ]</p> <p>法人は、施設の建設目的を理解し、目的に向かって一貫して事業を展開してきており、この姿勢は評価できるものである。特に昨今では、春の「唄と踊りの祭典」、夏の「ビール祭り」、秋の「ユートランド祭り」、冬の「雪あかり」等のイベントを積極的に企画・実施しており、地域のコミュニティ向上に資すると共に都市と農村の交流の場としての活用が十分に果たされている。</p> <p>一方で宿泊利用は、ビジネス用途での需要が中心となっており、グリーンツーリズムの主な対象となると考えられるグループや家族での利用が伸び悩んでおり、農村資源を活用したグリーンツーリズムや地元食材を活かしたメニュー開発等による施設利用の魅力づくりに一層の努力が必要な状況と評価される。</p> <p>今後は、施設周辺農家や牧場の支援を得た農業体験等のプログラム策定、首都圏の大学等へのアクティブラーニングの提案、空き室となっている食工房の活用方法の検討、スポーツ団体等のスポーツ合宿について積極的な営業等により地域の魅力を対外的に発信し、利用者の増加につながるよう指導してまいりたい。なお、このような農村資源を活用した総合的な取組を本格的に実施することにより、当社の存在価値や希少価値が一層高まるものと認識している。</p>

## (2) 計画性

項目	番号	質問	チェック欄	
			はい	いいえ
1 経営基本方針	1	経営基本方針を策定している。	○	
	2	経営基本方針の内容は、簡潔明瞭である。	○	
	3	経営基本方針には、法人の存在理由が規定されている。	○	
	4	経営基本方針について、経営陣が全ての役職員に周知している。	○	
	5	経営基本方針は、全ての役職員に浸透している。	○	
	6	全ての役職員が、経営基本方針に従った行動をとっている。	○	
2 中長期経営計画	7	具体的な指標に基づく中長期経営計画を策定している。	○	
	8	中長期経営計画と実績についての分析は、半期以内のサイクルで行っている。	○	
	9	中長期経営計画と実績についての分析結果を経営陣に報告し、分析結果に基づき業務改善を議論する仕組みがある。	○	
	10	中長期経営計画と実績についての分析結果を中長期計画の見直しに反映させている。		○
	11	中長期経営計画と実績についての分析結果に基づき、計画を達成するための具体的な業務の改善策を実施している。	○	
3 年次事業計画	12	年次ごとの事業計画を策定している。	○	
	13	年次事業計画と実績について分析し、分析結果を次年度以降の事業計画や中長期経営計画に適切に反映させる仕組みとなっている。	○	
	14	年次事業計画と実績についての分析は、半期以内のサイクルで行っている。	○	
	15	年次事業計画と実績についての分析結果を経営陣に報告し、議論する仕組みがある。	○	
	16	年次事業計画と実績についての分析結果に基づき、具体的な業務の改善策を実施している。	○	
4 経営環境の把握	17	法人の経営資源の長所、短所を把握し、法人の活動に反映させている。	○	
	18	外部経営環境(事業に関わる社会経済の動向・法令等の動きなど)を把握している。	○	
合計			17	1

## ・評価コメント

計画性について総括的に評価し、課題が生じている場合、その解決のためにどのような方策を講じるかについて記載してください。また、法人に対する所管課としての関与のあり方について記載してください。

出資法人	<p>[ 現状と課題 ]</p> <p>平成10年の開設から数年間は経営状況も順調であったが、平成17年以降は一部の年度を除き赤字決算となり厳しい経営環境が続き、資本金を取り崩して経営を存続してきたところである。しかし、抜本的な改善に至らず資本金が枯渇したことから、平成29年度に経営改善計画を作成し、市から指定管理料を受けて経営を存続している現状である。</p> <p>この改善計画を基に毎年度の事業計画を作成し、計画目標達成に向け取り組んで結果、平成30年度、令和元年度は計画の売上げは確保したものの、施設の故障、光熱水費、人件費の高騰などにより経費が増加したことから経営損失となっている。令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により計画目標を大幅に下回っており、影響を如何にして最小限に留めるかが課題となっている。</p> <p>[ 方策 ]</p> <p>リニューアルされた施設のPRを更に強化し生徒、学生などの合宿や大会参加校の宿泊誘致に力を入れるとともに、バーベキューハウスの利用条件の緩和と利用料の見直しを行う。</p> <p>また、改善計画で予定していた経費が、燃料価格の高騰、施設や車両等の老朽化、働き方改革の法改正などにより当初の改善計画より経費が大幅に増加しており、これらの経費を参入した指定管理料の見直しについて協議して参りたい。</p>
所管課	<p>[ 評価及び関与のあり方 ]</p> <p>市では、盛岡市総合交流ターミナルを対象として、管理水準の向上と提供する市民サービスの向上を目的に、第三者評価を令和元年度に実施した。当該評価の中で、経営の改善と安定した経営の実現のため検討事項として指摘されたのが、迅速な意思決定と多様性の反映を可能にする経営体制の構築、当事者意識の高い執行体制の構築、経営資源の有効活用、である。市としては、この第三者評価結果を指定管理者と共有し、引き続き、経営の立て直しに向けて指導・助言して参ります。</p>

(3) 経営管理の仕組み

項目	番号	質問	チェック欄	
			はい	いいえ
1 組織管理	1	組織構造は経営環境の変化に応じて定期的に見直しされている。	○	
	2	組織を機能ごと、または事業ごとに分け、役割を明確にしている。	○	
	3	部門ごとの連携が円滑に行われる組織体制になっている。	○	
	4	異なる業務間の配置転換、権限委譲等により組織の活性化を図っている。		○
2 コスト管理	5	事業別、業務別など、個別の事業内容に関するコスト分析を実施している。	○	
	6	コスト分析の結果が、経営計画や事業内容へ反映される仕組みとなっている。	○	
3 顧客満足度	7	定期的に顧客満足度調査を実施している。	○	
	8	顧客満足度調査の結果を分析し、分析結果を経営に適切に反映させる仕組みとなっている。	○	
	9	顧客満足度調査の結果を分析し、顧客のニーズを把握している。	○	
	10	顧客のニーズを分析し、その結果を踏まえて改善努力をしている。	○	
	11	中長期経営計画や年次事業計画に顧客のニーズを反映させている。	○	
4 職員の 人材育成・能力開発	12	業務に必要な知識を身につけるための職員研修や派遣を実施している。	○	
	13	研修等により、実際に職員の能力・技術が向上している。	○	
	14	職員が法人の活動に関わりのある資格を取得している。		○
	15	職員が研修で得たノウハウを、他の職員も共有している。	○	
	16	必要に応じ、専門知識を有する外部の人材を活用(職員として採用、指導や助言を受ける、など)している。	○	
	17	人材育成や能力開発を中長期経営計画等に盛り込んでいる。	○	
	18	経営陣は、人材育成や能力開発に積極的に関与し、かつ自らも学習し取り組んでいる。	○	
5 業務執行体制	19	決裁などの日常業務の意思決定や事務分掌、現金管理等、業務上の必要な規定が適切に整備されている。	○	
	20	理事会、取締役会をはじめとした業務執行体制が関係法令等に基づき適切に整備され、実質的に機能を果たしている。	○	
	21	経営上重要な意思決定は、理事会(取締役会、株主総会)の決議により行っており、必要に応じて迅速に開催できる体制が整っている。	○	
	22	監査の指摘事項に対して、改善策を実施している。	○	
	23	財務状況は、年度途中で定期的(必要があれば随時)に経営陣に報告する仕組みがある。	○	
6 情報公開	24	法人の財務状況や事業成果を積極的に外部に公表している。	○	
合計			22	2

・評価コメント

経営管理の仕組みについてについて総括的に評価し、課題が生じている場合、その解決のためにどのような方策を講じるかについて記載してください。また、法人に対する所管課としての関与のあり方について記載してください。

出資法人	<p>[ 現状と課題 ]</p> <p>日々の売上管理表、月次の利益管理表、勘定科目残高一覧表、月別総売上高、月別の入場者数などにより売上げ、入場者等を把握し、係長以上で毎週行う定例ミーティングで確認し、検討を加えている。また、月次で開催する原則、従業員全員が参加する全体会議で報告をするとともに意見交換を実施している。そうしたことから、経営状況については全社員が共有しているが、経営改善に結びついていない面があり、従業員一丸となって取り組む体制整備や意識改革が不可欠であり課題と捉えている。</p> <p>[ 方策 ]</p> <p>これまでに実施した経営改善策を検証するとともにコスト分析や経営分析を基に、現在行っている事業内容を精査し費用対効果を見定めながら取捨選択をするなどし、健全経営に向けて取り組んで参りたい。</p> <p>また、働き方改革による社員の待遇改善にも取り組むとともに、顧客満足度を高め、常連客の増加に向けて従業員を対象とした研修会の実施や待遇改善により従業員のやる気やレベルアップに向けて取り組んで参りたい。また各部署毎の話し合いや定例ミーティング、全体会議の定期開催により組織体制の強化を図り社内全体で課題解決に取り組んで参りたい。</p>
所管課	<p>[ 評価及び関与のあり方 ]</p> <p>これまで月単位で実施していた経営会議について、よりスパンの短い定量的、定性的分析・管理が必要という観点から週単位の開催としており、当該法人の経営管理に対する意識の変化が見られ、この点については評価できる。また、これまでラインの従業員の意見を取り入れる傾向が希薄だったが、このことについても改善が見られる。経営を直接動かす層が、現場の意見や動きについて深く理解することが個々の業務の改善の提案には不可欠なため、今後も社員一丸となり経営に向き合っていく体制づくりを進めるよう指導していく。</p>

(4) 財務状況

項目番号	番号	質問	チェック欄	
			はい	いいえ
1 財務状況	1	債務超過になっていない。	○	
	2	自己資本が十分に確保されている。		○
	3	借入金に依存しない資金運用を行っている。	○	
	4	市からの補助金の交付はない。または市に対する収入依存度は改善の傾向にある。		○
		平成30年度決算において単年度黒字である。		○
		令和元年度決算において単年度黒字である。		○
		令和元年度決算において減価償却前黒字である。		○
	5	累積欠損金がない。		○
	6	累積欠損金があるが、対自己資本比率は50%未満である。 ※この設問は、前の間で「いいえ」と答えた場合のみ回答してください。		○
	7	累積欠損金があるが、対自己資本比率は50%～100%である。 ※この設問は、前の間で「いいえ」と答えた場合のみ回答してください。	○	
合計			3	7

・評価コメント

財務状況についてについて総括的に評価し、課題が生じている場合、その解決のためにどのような方策を講じるかについて記載してください。また、法人に対する所管課としての関与のあり方について記載してください。

出資法人	<p>[ 現状と課題 ]</p> <p>平成10年の開設から数年間は経営状況も順調であったが、平成17年以降は一部の年度を除き赤字決算となり厳しい経営環境が続き、資本金を取り崩して経営を存続してきたところである。しかし、抜本的な改善に至らず資本金が枯渇したことから、平成29年度に経営改善計画を作成し、市から指定管理料を受けて経営を存続している現状である。</p> <p>この改善計画を基に毎年度の事業計画を作成し、計画目標達成に向け取り組んだ結果、平成30年度、令和元年度は改善計画の売上げは確保したものの、施設の故障、光熱水費、人件費の高騰などにより経費が増加したことから経常損失を計上してしまった。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により春先に約半月間休業を余儀なくされるなど、大幅な売上げ減となっており更なる経営悪化を懸念している。</p> <p>[ 方策 ]</p> <p>厳しい経営が続いているところに、新型コロナウイルス感染症の影響により大幅な売上げ減となっており、この影響を最小限に留めるため、これまでの改善計画以上の経営改革が必要と認識している。クアハウス、ホテル、郷土食、産直売店の各コーナーの収支状況や営業内容等を精査し課題を抽出し、収益向上に向けた改善策を見出して参りたい。また、新型コロナウイルス感染症に係る国、県、市等の支援制度は全て活用するようアンテナを高くして情報収集して参りたい。</p> <p>経費面では、重油やチップの高騰、水道光熱費の増、車両費の増額、働き方改革に伴う最低賃金のアップ、従業員の体制整備など人件費の増額など厳しい状況であるが、これまでの慣例に捉われない抜本的かつ大胆な支出削減に取り組んで参りたい。</p>
所管課	<p>[ 評価及び関与のあり方 ]</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響による市況の悪化を受け、当該法人の経営も純売上ベースで昨対同月で約40%～60%と厳しいものとなっている。財務状況については、営業収支ベースではほぼ確実に昨年度より悪化することが想定されるが、そのような中で、従業員体制の再構築等で人件費等の固定費については昨年度よりも改善が見られ、悪化を食い止める努力が窺える。また、酒販免許について現在取得を目指しており、売上原価の圧縮を目指す意識も見受けられることから、この姿勢について、今後も継続して取り組むよう指導していく。</p>

## (5) 活動成果

項目	番号	質問	チェック欄	
			はい	いいえ
1 成果指標	1	各業務について、成果指標が数値で具体的に設定されている。	○	
	2	法人の設立目的と連動した指標となっている。	○	
	3	事業ごとに数値目標を設定している。	○	
	4	指標や目標は、類似の事業を行う他の団体(他の地方自治体の出資等法人など類似団体、民間企業、非営利団体等)の動向を踏まえて設定したものである。	○	
2 活動成果の評価と公表	5	主要な成果指標について良好な水準を保っている、または改善の傾向にある。	○	
	6	成果指標の達成度について定期的に検証が行われている。	○	
	7	法人の活動成果について、外部委員等による定期的な点検・評価が行われている。	○	
	8	活動成果をホームページ等の媒体を使って住民に公開している。		○
合計			7	1

## ・評価コメント

活動成果について総括的に評価し、課題が生じている場合、その解決のためにどのような方策を講じるかについて記載してください。また、法人に対する所管課としての関与のあり方について記載してください。

出資法人	<p>[ 現状と課題 ]</p> <p>各部署ごとに営業状況の報告や新聞などの関連記事や関係事業などを掲示板に掲示し、情報の共有に努めるとともに従業員のスキルアップに向けた研修会を定期的実施するなど、お客さんへのおもてなしの向上に向け取り組んでいる。また、人件費の比率が増大していることから、現在の現場の作業状況を点検し、効率的な業務の遂行に向け時間外勤務の減少に取り組んでいる。しかし、令和2年3月に最終報告を受けた「盛岡市総合交流ターミナルにおける管理運営等に係る第三者評価業務報告書」で、組織内のコミュニケーションが不十分であり組織内で情報共有がされていないとの指摘があった。また、赤字経営が続いていることへの従業員の意識が希薄で緊張感が無いとの指摘も受けており、取り組みが不十分なところもあったと捉えており、取り組み強化が必要と認識している。</p> <p>[ 方策 ]</p> <p>組織内の情報共有の充実に向け、毎週開催している定例ミーティングの報告を全従業員に配布するとともに、部門毎ミーティングの開催や売上げ状況報告を適宜実施して参りたい。また、個人面談や従業員アンケートの実施、部門毎ミーティングなどによりコミュニケーション不足を解消して参りたい。</p> <p>経営面では、業務分担の見直し、稼働率などにより最低限の必要人員を把握し、営業状況を勘案しながら計画的な人員確保に努めるとともにマルチタスク方式の導入など、各部門間の横断的業務連携を図って参りたい。</p> <p>また、会社の置かれている状況について個人面談などで説明し現状認識の基に赤字脱却に向けて各種の改革に取り組んでいく。</p>
所管課	<p>[ 評価及び関与のあり方 ]</p> <p>第三者評価により、情報の共有を図ろうという声が社内から出てきたということが、まず、大きな改善であると評価している。財務などの定量的な数字で結果を出すためには、既存事業・業務の見直しは不可欠であり、そのためにはまず情報共有が社内ですべてに図られることが肝要であり、今後も、部門間や職員間の垣根を超えて、赤字脱却に向けて一丸となった取り組みを進めていくよう指導していく。</p>

(6) 経営内容に関するその他の特記事項

<p>出資法人</p> <p>利用料金制を導入してオープンしたユートランド姫神は開業から23年が経過したが、その間玉山地域の人口が約2割減少するなど近隣市町も同様の状況で、こうした周辺人口の減少は経営に大きく負の影響として表れている。また、平成29年に大規模改修をしたものの、未改修の機械設備や構造物の老朽化が進行している。</p> <p>このような状況で今後も持続可能な施設の管理運営がどうあるべきか黒字化に向け暗中模索の中、様々な改革に取り組んでいるが、設立当初比較で重油や水道料金の高騰、働き方改革に伴う人件費の増、備品更新など、制度改正や社会環境の変化等と相まって管理経費が増加している状況である。</p> <p>また、当法人の従業員の離職率は常に年間10%前後と高く、働き方改革の法改正への対応とともに労働条件や労働環境の改善も課題と捉えている。</p> <p>今後、令和元年度に実施した「盛岡市総合交流ターミナルにおける管理運営等に係る第三者評価業務報告書」の指摘事項への対応と提言を検証し経営安定化への取り組みを強化し黒字化を目指していくため仮称「ユートランド姫神経営改革の方針及び実施計画」を策定中であり、取締役会に図った後に実施計画に基づき具体的な取り組みをして参りたい。</p>
---

3 市による総合評価

<p>施設の老朽化について、建物本体や設備の修繕・更新が十分に実施できていないことから、施設運営に支障が発生しないよう対応して参りたい。</p> <p>財務状況について、令和元年度期は営業収支ベースで昨対1,000千円ほど改善しており、第三者評価を受けてからの当該法人の意識の変化が遠因と考えている。令和2年度については新型コロナウイルス感染症の影響で、出鼻を折られた形になるが、財務の改善に向けて工夫を凝らしていく姿勢が見られるため、今後もこれらの取り組みを継続していくことを所望します。</p> <p>市としては、市民の同意に基づく必要な財政的支援と情報提供や、担当課による法人の指導を引き続き継続して参りたい。</p>
--